

令和3年度 信学会東堀保育園 「自己評価」関係者評価

1. 園の教育目標

園の中心テーマ「子ども一人ひとりの魅力が高まり、絆が深まる」こども園

サブテーマ「子どもが『考え、決め、友だちとつくる楽しさ』を味わえる園を目指して

・信学会の教育理念「子どもたちの主体的な学びと、他者との関わりで生まれる経験を通じて、生涯にわたり自ら学び続ける人間を育てる」

2. 本年度の重点目標

- ・思いやりをもって、「ひと・もの・こと」と関わり、友と伝え合う活動
- ・よく考え豊かに創造して表現し、自分らしさを発揮する活動
- ・生活と関わらせた、野菜などを育てて頂く食育の活動

3. 自己評価

A…十分達成されている

B…達成されている

C…取り組んでいるが、成果が十分でない

D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価
教育課程・指導	・園は目指している教育目標、本年度の重点目標を周知している。	B
	・教育課程実施において、教職員は共通理解をしている。	B
保健管理	・日常の健康観察や、疾病予防のための取り組みや健康診断などを行っている。	A
安全管理	・事故やケガ等発生時の危機管理マニュアルが整備されている。	B
組織運営	・園長は教育目標の達成に向けリーダーシップを発揮し、職員をリードしている。	A
	・園運営が適切に機能するために、運営・責任体制の整備を行っている。	C
研修（資質向上への取組）	・法人実施の研修会への参加と、園内研修会の実施をしている。	A
	・日々の保育の振り返りと課題を明確にしている。	B
教育目標・園評価	・幼児の実態、保護者の意見要望などを踏まえた園目標を設定している。	B
	・保護者アンケートの実施と、学校関係者委員会（モニター会）を設置している。	A
	・本年度の重点目標達成のための取り組みをしている。	A
情報提供	・園公開を実施し、園の取り組みを広く情報提供している。	B
	・園の情報を広く公開するために、ホームページ等を活用している。	A
保護者・地域住民との連携	・PTA や学校関係者委員会（モニター会）等で定期的に懇談会を実施している。	B
子育て支援・預かり保育	・地域における保護者の実情や、子育て支援ニーズを把握している。	C
	・保護者の実情や要望を取り入れ、預かり保育・希望保育事業を実施している。	B
教育整備環境	・子どもの成長に則した教育環境になるよう工夫を重ねている。	B

4. 本年度の取り組みについて

- ・4年目となって園テーマを「子ども一人一人の魅力があふれ、絆が深まるこども園」とした。また、具体的に実現するためのサブテーマを設け、「子どもが考え、決め、友だちとつくる楽しさを味わえる園」とした。これは、日々の保育で「子どもの主体性を実現するためのキーワード」と考えた。早速、各年齢別に応じて、子どもが考える場面の工夫が進み、クラス活動「運動会」等での話し合いが進み、子どもの課題別種目を創出した結果、保護者からの「子どもの力が伸びた」と評価をいただいた。また、本園の特色ある企画の「わくわくの日」は、園児や保護者にとって魅力あり楽しい取組として高い評価を受けている。各コーナーの充実や子どもの活動が高まっている。
- ・コロナ禍の園運営に工夫改善が求められている。保護者からの要望もあり行事の見直しを図った。具体的には参観日を学年別の分散型とし「クラス別、短時間で園の保育のよさを感じられるもの」、卒園式も「クラス別として、感染リスク低下」を図って行った。保護者からの意見要望を今後も園運営に生かしていきたい。
- ・「ラーニングストーリー（園児理解）」の取組も、以上見では、月に一度のペースで保護者に提示し、保護者からの返事も積み重なってきている。「毎月のきずなが、楽しみ」「きずなに、家でのエピソードを増やして、子

どもの思い出作りになっている」と新たな取組が広がってきている。

- ・本年度は、特別支援教育への取組を推進した。特に、発達障がいを含む「困り感をもつ子ども」やその保護者への支援を行ってきた。具体的には、市子ども総合相談センターの専門員からのアドバイスを受け、支援の方法や改善の試みを行った。効果が少しずつ出てきている。しかし、子どもの様子に応じて職員の配置替えをしたが、子どもとの相性もあり検討を要した。来年度に生かしたい。
- ・サブテーマ「子どもが考え、決め、友だちとつくる楽しさ」は、クラスの活動及び運動会や発表会（音楽会）等で行った。特に、以上児の運動会では、子どもが日頃の新型コロナ感染防止の関係で、「密集を避けた、短時間・学年ごと」の行事とした。その結果、短時間の集中度が高まり、「子どもが考えた種目や内容」となった。この内容の改善もあって、保護者からの評価は、「感動した」「短時間でも子どもの姿が分かりやすかった」と好評であった。今後も今回の方式を採用し、行事のあり方全体の見直しをしたい。
- ・食育に関わっては、園の畑「にじいろ畑」で、13種類の野菜等を栽培し、園児全員が関わっての取組となった。職員や地域の支援者からの日常的な管理が行き届き、品質も量も十分確保され、園児の観察→試食や収穫野菜で給食も行われて、「大切に育てて頂く」を実感し始めている、この取組と体験を今後も続け、日常生活と関連付けた食育をさらに推進したい。
- ・課題は、地域における保護者の実情や、子育てニーズに応じた園運営である。新型コロナ感染防止の関係から、「ノントンの日」の実施が難しく、人数を制限しての運営をした。当面、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらの実施となるので、ホームページ等のネットを活用した発信や交流を図りたい。

5. 来年度の取り組みについて

- ・4年間の運営を通して「本園の良さや魅力」等が保護者の口コミで広がりを見せている。少子高齢化の中子どもの減少は避けられない道であるが、今後も岡谷市や地域にとって魅力ある園づくりを行いたい。
- ・令和3年度に大きな課題となった「特別支援教育」の改善を図りたい。特に、専任の講師をお招きして、配慮を要する園児の理解と支援の方法。具体的な保育（環境づくり、生活習慣づくり等）のあり方を中心に据えて改善を図りたい。
- ・そのため、今後の園テーマを大きく改善して「想像力」をキーワードとして考えている。それは、園児理解をベースとした保育のあり方は、保育士の想像力の賜物と考えている。特に、配慮を要する子（発達障がいを含む）への支援は、その子の困り感をいかに想像するかにかかっている。保育士主導型から転換して、「自ら学ぶ主体的な子ども」を目指して取り組みたい。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策を今後も行った園運営が必要である。各行事や生活を見直し、感染リスク低下を図りながらも、効果の上がる行事や活動を考えたい。
- ・危機対応の研修会を年度当初行いたい。新型コロナウイルス拡大後、実習生もオンライン講義や実習等を経て採用されるケースが多くなり、実際の人間関係づくりや保育等の実体験が少なくなっている。また、危機対応の仕方も分からないまま保育現場に立つことが増えている。そこで、新任者や2年目職員を中心とした、危機対応の研修を行いたい。
- ・コロナ感染対策の一つとして導入された、レーザーキッズ（LK）の活用を図りたい。ホームページ（HP）同様に、子どもの姿や動画などの配信をはじめ、通信や連絡等の情報を幅広く考え活用したい。